

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

「クリスマスおめでとうございます！」のご挨拶に始まり、最後にも、「主のご降誕のお喜びを申し上げます。……新しい年も、皆様の上に、神様の豊かな祝福が注がれますようにお祈りしております」で締めくくられた今年最後のニュースレターです。この号には、第31回全ベース会議の様子をご紹介します。「福島の実状を学ぶ」というテーマで、福島県檜葉町の宿で研修しながら、現地見学もさせていただきました。日頃自分の活動で忙しく、心にかかっていた「福島」を自分の目で見、話を聞き、福島のカリタス南相馬のベースから、南相馬市、浪江町、富岡町、檜葉町からさらに南下し、広野町を通り、いわき市のもみの木ベースについて学んだ実り豊かな2日間でした。

クリスマス おめでとうございます！

仙台教区サポートセンター 事務局長 小野寺洋一神父

昨年のクリスマス前に、「おめでとうございます！」と皆様にご挨拶したばかりという気がするのに、もう1年たってしまったんですね。昨年と比べ、今年の1年間は、皆様方にとっても、いろいろなことがあった年だと思います。私にとってもそうでした。

先日、このようなことが書いてある記事を読みました。それは、「クリスマスプレゼントに一番もらいたいもの」という文章でした。ちょっとご紹介いたしましょう。

1. 私の話を聞いてほしい。
2. 私を励ましてほしい。
3. 笑いがほしい。
4. 一言、メッセージがほしい。
5. 何かほめことばを聞かせてほしい。
6. 親切にしてほしい。
7. 時には一人っきりにしてほしい。
8. 明るい雰囲気を作ってほしい。

これを読んで、私は、ますます皆様のご苦労と働きのすばらしさを感じました。クリスマスの時だけでなく、いつも、皆様がお茶この時、いろいろなボランティア活動の時、常に心がけておられることだと思ったからです。

本当に今年一年間、ありがとうございました。

新しい年も、カリタスベースの皆様、ボランティアの皆様、支援活動に携わっておられる全ての皆様の上に、神様の豊かな祝福がありますように祈っております。



第31回全ベース会議

仙台教区サポートセンター 濱山 麻子 長谷川 昌子

仙台教区では、3カ月に一度、カリタスベースの責任者が集い、「全ベース会議」を開催しています。3年前より、年4回のうち1回はスタッフの交流と研修を兼ねた形で行うようになりました。今年は「福島の実状を学ぶ」というテーマで、11月30日から12月1日の1泊2日、福島県で行いました。各ベースから複数名のスタッフ、カリタスジャパン担当者、支援担当の司祭など40名が参加しました。

初日は仙台の元寺小路教会に集合。バスに乗り込み、仙台東部道路～常磐道を通り、津波の被害を受けた宮城県沿岸部を見ながら、カリタス南相馬（福島）に到着しました。南相馬のスタッフらも合流し、

ここからは現地見学として、カリタス南相馬スタッフの南原摩利さんのガイドで南相馬市、浪江町、富岡町を回り、檜葉町の宿に入りました。（現地見学の内容は別添。）



南相馬市鹿島区の海沿いに建てられた風力発電用風車とソーラーパネル

2日目、平賀徹夫仙台司教の主司式によるミサに始まり、カリタス南相馬の畠中千秋所長と幸田和生司教による「福島の実状」についての講話がありました。（内容は別添。）その後、仙台教区サポート会議と分かれ、ベーススタッフによる第31回全ベース会議が行われました。被災地では仮設住宅から災害公営住宅等への住民の移動が進んでおり、それに伴って各ベースの活動も節目を迎えています。各ベースからの報告です。



全ベース会議の様子

【ベースからの報告】

○宮古ベース

2018年度の活動について、札幌教区と宮古教会（岩手）、盛岡の教会間で協議をしている。2018年3月11日には宮古教会で追悼ミサを行う予定。

○大槌ベース

2018年3月でベースを閉所する。仮設住宅でのサロンや様々なイベントを、ベース閉所後も町民の方々が自力で開催できるように引継ぎを行っている。

○カリタス釜石

復興公営住宅での入居者同士の関係が希薄であり、交流のきっかけ作りのためのサロン活動が続いている。また、傾聴ボランティアとともに戸別訪問を行っている。夏休みを中心に学生団体が入った際、スタッフの被災体験を伝えるとともに、実際に災害が起こったらどうするか、防災のためのワークショップを行った。

○大船渡ベース

災害公営住宅での活動が増えている。日頃、遠出をする機会がない地域の方と遠足を行い、街の復興の様子を見ていただく良い機会になった。今年の秋の衆議院選挙でベースが投票所として利用された。地域の公民館的な役割が増えている。

○米川ベース

漁業、農業支援の活動が続いている。活動先である南三陸町は第一次産業が町のなりわいの大きな柱であり、街づくりと第一次産業支援は切り離すことができない。また、高台移転後に寂しく過ごしておられる高齢の方々へ戸別訪問を行っている。

○石巻ベース

毎月のオープンスペース利用者が400人前後おり、地域の中で必要な場所とされていることを実感している。8月にこれまで関わってきた仮設住宅3か所でのお茶っこを終了した。今後は独居の方への戸別訪問の必要性を感じている。

○カリタス南相馬

スタッフ、ボランティア14名で活動中。南相馬市内の様子として、鹿島区に風力発電の装置が作られている。また、福島県内の各市町村に放射性廃棄物の減容化施設が作られているが、最終処分場の建設については未定である。福島県内で活動している支援グループの動きとして、NPO法人福島やさい畑は野菜配りをやめ、フードバンクを立ち上げる。

○いわきサポートステーションもみの木

来年3月で現行の仮設住宅でのサロン活動を終了する。訪問していた仮設住宅のうち、集会所が閉鎖された仮設自治会から、復興公営住宅での支援をしてほしいとの要望があり、2018年1月～3月まで開催予定。4月以降の活動については、1月に教区内で会議を行い、司教団が支援継続を決めている2021年までの間、教区としてどのような支援ができるのか検討する。



2011年12月23日（もみの木開所式時）

隣には、仮設店舗で営業している郵便局とその駐車場がありました。



2017年12月1日

「もみの木」建物の色合いの変化や、隣に仮設としてあった郵便局が、本設店舗として営業していることから、月日の経過が感じられました。

○CTVC(カトリック東京ボランティアセンター)

松本町教会(福島)による宮代仮設住宅（浪江町から避難された方々が居住）への訪問が12月9日に終了する。協同して行ってきたボラパックには1,300人以上のボランティアが参加してきた。今後は、東京からカリタス南相馬へのボラパックを検討している。

会議終了後、バスに乗りこみ、もみの木ベース長の朝尾光二さんのガイドで、檜葉町から6号線を南下し、広野町を通り、いわき市へ。塩屋岬灯台、災害公営住宅などを車窓から見学して、最終目的地であるいわきサポートステーションもみの木に到着。もみの木では日立教会（茨城）からのボランティアさんが淹れてくださったコーヒーと大熊町出身のお菓子屋さん自慢のケーキをいただきながら歓談、施設内を見学しました。その後JR郡山駅で散会し、二日間の研修会議が終了しました。



↑いわき市の災害公営住宅
←もみの木ベース長朝尾さんによる案内

今回は、早足ではありましたが、原発周辺の帰還困難区域を含む地域を参加者全員で見ることができました。避難指示が解除されても人気の感じられない街並み。一見きれいだけれど主が戻らない住宅、その横で朽ちている納屋、道路一本隔ててバリケードで遮られた帰還困難区域。広大な敷地に積み上げられていくトン袋、第一原発へ向かっていくバス。避難指示が解除されても、原発事故による被害の収束にはならないこと、被害の果てしない大きさを、改めて感じました。



もみの木で美味しいコーヒーをいただきながら交流

（第44回仙台教区サポート会議の様子）

全ベース会議と別れ、ホテルロビーで開催されました第44回仙台教区サポート会議には、14名が出席し、次のような報告が行われました。



サポート会議の様子

まず、仙台教区サポートセンター事務局長の小野寺神父が、8月以降の仙台教区内の支援活動の主な変化について報告しました。

- ・「チーム・カリタス仙塩」として、仙台・塩釜の8教会が協力し合って、石巻ベースの支援を始め、軌道にのって、ベースも助かっています。
- ・仙台市では、仮設住宅は閉鎖され、復興公営住宅に移行しました。しかし、多くの市町村では、まだまだ復興公営住宅が建設中だったりします。
- ・教皇庁福音宣教省の長官が、仙台に来られました。福島をご覧いただいたのですが、カリタスと教会が復興支援をしていることに、驚いて感心しておられました。

次に、カリタスジャパンの田所氏から報告がありました。

- ・東日本大震災に関わった人々に聞いて、マニュアルを作りました。9月の司教総会のドラフトとして配布し、ご意見をいただいたので、現在、JLMMが手直しをし、各教区に出かけて行き、マニュアルに意見を反映したものを完成版として作っています。

3管区からの近況報告があり、その後、来年度の活動見通しについて話し合わせ、年4回、サポート会議を行うことが決定しました。最後に、仙台教区から2018年3月11日に仙台のカテドラルで午後2時から追悼ミサがささげられるとの報告があり、終了となりました。

【近況報告】

○長崎

- ・福岡の宮原司教が、九州北部豪雨災害のため本郷教会をボランティアセンターとして開設するために、教会に募金を依頼したところ、全国から2千万円集まり、センター開設後、被災者に電気毛布など暖房器具を配ることができました。

- ・2018年3月12日、大槌ベースの閉所式を11時から行い、感謝のセレモニーを実施いたします。スタッフの今後も決まっています。

○大阪

- ・大阪管区内の教会を見ると、3.11の意識が薄れていっていると感じます。そこで、現地報告会を開催し、交流会もしたいと考えています。

○東京

- ・福島の前代仮設でボラパックをしてきましたが、2017年12月9日にもちつきを行い、それをもって前代仮設のボラパックは終了します。その後のボラパックは、南相馬を考えています。

○札幌

- ・2018年3月で、活動を収束いたします。



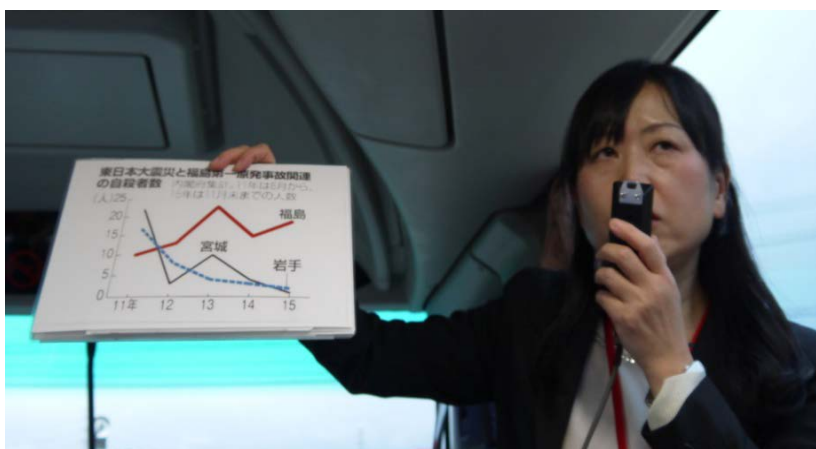
「もみの木」前で集合写真撮影

福島の現状

カリタス南相馬 畠中千秋（聖心会修道女）

【現地見学】

11月30日12時30分、カリタス南相馬を出発して、スタッフ南原摩利が現地案内の説明を担当させていただきました。



カリタス南相馬 南原さんによる案内

南相馬市の北にある鹿島区にある仮設住宅、海沿いの「みちのく球場」などをご覧くださいました。新しいことでは、海岸沿いには風力発電用の風車やソーラーパネルが広域に設置されています。さらに、6号線沿いを南下しながら、相馬野馬追祭場を通り、希望の牧場、浪江、請戸を通り、東京電力福島第一原子力発電所のある方向を車窓から眺めながら、富岡、夜ノ森駅付近の帰還困難区域と避難指示解除準備区域の隣接した現状を目の当たりにいたしました。そして、16時半頃には、宿泊場所、展望の宿 天神（檜葉町）に到着することが出来ました。



希望の牧場（写真上）、スクリーニング場（写真下）

放射性廃棄物を入れた黒い袋（フレキシブル・コンテナ・バッグ＝フレコンバッグ）が積み上げられている仮の仮置き場があらこちらにある風景と草が伸び放題の荒野の風景とバリケードで立ち入りが禁じられている風景と帰還困難区域の表示のある風景を次々に目の当たりにしながらも、遠くには、青い空が広がり、紅葉の山々が、美しい自然を誇らしく見せてくれています。

原発事故さえなければ、この美しい風景の中で普通の人々の暮らしが日々営まれているはずだったと思うと、言葉を失います。原発事故から7年目でも、この現状……。

【講話】

思い返せば、2011年3月11日、大地震が起こった時、私は東京の山谷地域にある修道院にいました。次々に入るニュースに、目も耳も疑い、信じられないことでした。次に思い出したことは、1995年1月17日の阪神淡路大震災の時のことです。あの時、私は兵庫県宝塚市にある小林聖心女子学院にいました。その時のことと重なり、今、東京にいてもできる事は何かないだろうかと思い、あらこちらに連絡をしました。

そして、2011年5月20日に、ボランティアセンターを立ち上げる準備会をするという連絡がありました。その時から、カトリック東京ボランティアセンターのメンバーに入れていただき、電話当番から始まり、次第に、原町教会や南相馬の仮設住宅に足を運ぶことになりました。この出会いを神の計らいだと感謝しています。

聖心会に入会する前に、私は公立中学校で働いていました。その時のことが思い出されました。



平和学習というものがあり、その時に、「原子力」に関する話がありました。「原子力を悪いことに活用すれば、原子爆弾となり、良いことに活用する例が原子力発電である。原子力発電で使用済みの燃料棒は地中深く埋める。」と聞いたことを思い出したのです。その時に、放射

能の恐ろしさに関して何も思わなかった自分がいたことを思い出したのです。「地中深く埋めなければならないほど危険なものなのだ」ということに思い至らなかったのです。

福島に関わるようになり、日本中に54基も原子力発電所があるということを知りました。そして、7年目になっても、原発事故後の処理が収束していない現実、自宅に帰れない人々がいる現実、放射能で汚染された地域がいまだに残る現実を、知らないことにはできない、そして、なかったことにもできないのです。



放射性廃棄物の減容化のための仮設焼却施設（浪江町）

カリタス南相馬で、夕食後にボランティアの方々とよもやま話に花が咲くときがあります。ある人が、「俺は原発反対だ！」と言い始めたら、誰かが、「政治の話はするな！」とどなり、空気がまずくなることがありました。私自身も原発反対です。政治の問題ではありません。いのちの問題です。日本カトリック司教団「いのちへのまなざし」増補新版、カトリック中央協議会発行「今こそ原発の廃止を」の2冊の本は是非、教会でも多くの皆様に、お勧めください。

現在66歳の私が後20年生きるとして、86歳になります。これからの人生をかけて、平和の課題、地球環境保全の課題としても、共に学ぶ必要性を感じています。



「毛糸の帽子プロジェクト」のその後…

前号でご紹介しましたカリタス石巻ベースの「毛糸の帽子プロジェクト」のその後について、戸塚教会の方を経由して、AOS横浜から素敵なお写真とともにご報告が届きました。

～AOS横浜からのご報告～

先日頂いた帽子をセンターに来たフィリピン人とシンガポール人の船員にお渡ししました。その写真と別の船にクリスマスプレゼントをお届けした時の写真をお送りいたします。

プレゼントをお届けした船は、急なはしごのようなもので登らなくてはいけない状況だったため、陸にいる船員さんがプレゼントを紐で縛って、それを船上にいる船員さんがひっぱってくれて、無事に届けられました。

皆さんにどうぞよろしくお伝えください。



心のこもった温かい帽子のプレゼントは、大変喜ばれました！

主のご降誕のお喜びを申し上げます

この1年も、たくさんの方々との関わりの中で活動を続けてくることができました。

お世話になりました皆様に、心より感謝申し上げます。

東日本大震災の被災地では、仮設住宅の閉鎖・集約が進んでいます。それに合わせて、これまでの支援活動に一旦の区切りをつけるという方々のお話を聞くことが、増えてきました。震災後の6年数ヶ月の間、それぞれの場所、それぞれの活動の中で、数えきれない涙、そして喜びがあったことと思います。

仙台教区サポートセンターでは、今年の3月に福島県南相馬市に拠点を構えていた福島デスクを一旦休業としました。それまでのような細やかな情報収集が難しくなり、心苦しいままに年末を迎えてしまいました。

私たちにできることは本当にささやかですが、支援活動に携わってこられた皆様との関わりの中で、被災地で暮らす方々の今を一人でも多くの方へ伝え、ともに希望へ向かって歩んでいきたいと思っています。

新しい年も、皆様の上に、神様の豊かな祝福が注がれますようにお祈りしております。

仙台教区サポートセンター 一同



石巻ベースのクリスマスツリー☆